

➤ これから BCG ワクチン接種を受けるお子様の保護者の方へ

---

Q1 BCG ワクチンは必要でしょうか？

---

A1 結核は日本の重大な感染症です。

BCG ワクチンは、結核を予防するためのワクチンです。

結核は、結核菌が人から人へ感染することで起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ 17,000 人以上の患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。

また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。

特に乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

---

Q2 現在の BCG ワクチンを接種しても、大丈夫でしょうか？

---

A2 安全性に問題はないと考えています。

生理食塩液に含まれていたヒ素はごく微量です。接種による安全性に問題はないと考えています。また、これまでもヒ素が原因とされた健康被害の報告はありません。

---

Q3 新しい BCG ワクチンは、何が変わるのですか？

---

A3 生理食塩液のアンプル（ガラス容器）が変わります。

アンプル（ガラス容器）に含まれていたヒ素が、生理食塩液に溶け出てしまったことが原因です。その対策として、ヒ素を含まないアンプルに変更します。

なお、新しい生理食塩液では、ヒ素が検出されないことを確認しています（0.1ppm 以下）。

---

Q4 新しい BCG ワクチンは、いつから接種できるのですか？

---

A4 弊社からは、11 月中旬～下旬以降には出荷できる見込みです。

現在、新しいアンプル（ガラス容器）を用いた生理食塩液の製造を進めており、11 月中旬～下旬以降には弊社から出荷できる見込みです。ただし、流通に時間がかかりますので、医療機関にお届けできるのは 12 月上旬になる可能性もあります。

---

Q5 BCG ワクチンは、いつ接種すればよいのですか？

---

A5 通常、5～8 カ月に達するまでに接種します。

生後 1 歳に達するまで（通常、生後 5 カ月から生後 8 カ月に達するまでに接種しますが、地域における結核の発生状況など、固有の事情を勘案する必要がある場合はこの限りではありません）に接種します。なお、長期にわたり療養を必要とする疾病にかかったことなどにより、上記の時期に接種の機会を逸した場合、接種を受けられるようになってから 2 年間（ただし、4 歳に達するまでに限る）接種を受けることができます。